

青梅市文化財ニュース

第 1 7 4 号

平成14年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅にもいた八王子千人同心

八王子千人同心とは、江戸時代に甲斐の武田氏の旧臣や諸家の浪人が幕府に召し抱えられ、八王子とその周辺の村に在住し、甲州口の警備や日光火消番などを勤めた郷土集団のことをいいます。その人たちは、日光火消番などの公務時以外は農民として農業に従事していましたが、江戸中期以降になると公務の出費が過重負担となり、「由緒番代わり」といって同心の身分を「株」として他家へ譲ることが行われるようになり、次第に、その在所の村も八王子から遠隔化していきました。そんな中で青梅市域の旧村にも「同心株」を買って、その身分を取得した農民がいて、千人同心組頭・二宮光鄰が嘉永7年（1854）に作成した「千人同心姓名在所図表」など（以下、「在所図表等」という。）によると、日影和田村に久保巳之助、和田鶴松、青木傳之助、斎藤左平次、岡部藤太郎および宮岡善九郎の6人、黒沢村には中村嘉右衛門、中村鐵五郎、柳内賢次郎および柳内平右衛門の4人、青梅村に荒井權左衛門、田中八百作の2人、合わせて12人いたことが記されています。さらに、既刊の郷土史等によると、在所図表等で大久野村（現日の出町）に記されている石川良助が日影和田村に、網代村（現あきる野市）に記されている山崎彌惣次が西分村にそれぞれ在所しており、実際は14人が在所したことになります。そこで、これまでに詳しく見た限りでは報告例等がない日影和田村などに在所していた12人の実態を筆者（大澤）がこれまで調べてきた結果をもとにして見てみると、まず日影和田村では久保巳之助、和田鶴松、青木傳之助および斎藤左平次の4人の子孫の家を探し当てることができ、千人同心関係の史料なども多少見つかっています。しかし、岡部藤太郎については、石川良助が著した「日光御参詣日記」に将軍にお供する一員で、また福生市の横田家所蔵の千人同心申渡書の中に「組頭岡部藤太郎」とその名が見えるのみで、それ以上のことは分りません。宮岡善九郎については今のところ全く不明です。黒沢村では、中村嘉右衛門と中村鐵五郎の両人が墓石から在所事実を掌握することができ得ましたが、その子孫の家では先祖が千人同心であったことを伝えておらず、史料等も残していないようです。柳内賢次郎については、一字違いの「才次郎」を名乗っていた千人同心を探し当てており、もしかして同一人物の可能性もあります。また、柳内平右衛門

については、「平」の一字を世襲的に名乗ってきた家が分りましたが、その者の系譜を引く家とは特定できていません。最後に、青梅村の荒井權左衛門は、同姓の多い大柳町あたりに在住していた可能性があり、同姓を名乗る家の旧家を中心に探していますが、残念ながら見つかりません。また、田中八百作は、同姓が旧青梅村のどの地域にかたまってあるという名字でないために、見つけるのはほぼ絶望的かと思います。以上、在所の事実を中心に概観しましたが、千人同心の組織が解体されて130年余が経過し、これまで市内で見つかった数少ない史料などから、その者の活動や村内での生活様相を解明するには、たいへん困難なように思えます。

（文責 大澤 清吾）